

# 9月定例会

県議会を振り返る

## 災害対応力の強化について



青野高陽 議員  
(自由民主党)

災害時広域受援計画は、災害時に外部からの支援を必要とする業務などを明らかにしなければならぬ。市町村支援体制の整備も必要だが、市町村とも十分に協議し、受け入れ側と応援側が円滑に動けるよう可能な限り具体的な計画にすべきだ。また、災害対応の拠点となる市町村の機能維持は必要不可欠であり、市町村が早期にBCPを策定するよう積極的に働きかけられるべきだが併せて所見を伺いたい。

## 新産業構造ビジョンについて



柳田 哲 議員  
(民主系クラブ)

IoT・ビッグデータ・人工知能による革新が進行しており、羅針盤となる官民共有ビジョンが必要だが、国は「新産業構造ビジョン」を取りまとめたが、このビジョンについての感想はどうか。また、「地域を支える産業の振興」を県の重点戦略と位置付けていることを生かし、新たなインベーションを生み出すとともに、国への積極的なアプローチも必要だが、併せて所見を伺いたい。

## 在宅医療の環境整備について



荒島俊造 議員  
(公明党)

在宅医療の提供体制を整備するには、急性期病棟の医師や看護師の在宅医療への理解促進や、訪問看護師の養成、介護職も含めた多職種連携強化が必要だが、また、自宅での看取りが平穩かつ適切に行われることが不可欠。こうしたさまざまな観点から、在宅医療を支える環境整備が必要だが、併せて所見を伺いたい。

## 代表質問から

# 11月定例会

県議会を振り返る

## 農業の担い手育成、経営規模拡大、高付加価値化について



井元乾一郎 議員  
(自由民主党)

農業就業人口の減少や農業者の高齢化により、耕作放棄地が増えている。農業を持続的に発展させるためには、農業を持続的に発展させる。もうかる産業として確立するためには、農業を支える多様な担い手の確保、育成に取り組むとともに、農地の集積・集約化により経営規模を拡大し、白桃の晩生品種の導入など高付加価値化を推進すべきだ。今後どう進めていくか、所見を伺いたい。

## 事業承継ネットワークの構築について



三宅和広 議員  
(民主系クラブ)

中小企業・小規模事業者の後継者不足による休業・解散が問題になっている。事業承継を促進するには、案件の掘り起こしが必要であり、経営者が自身の状況や事業価値を確認することが肝要だ。国は、事業承継診断を実施するネットワークの立ち上げを都道府県に働きかけているが、本県の今後の取り組みを伺いたい。

## 県立学校施設のエレベーターの整備方針について



高橋英士 議員  
(公明党)

車いすを使用するなど特別な支援を必要とする児童生徒が、有義務な学校生活を送るためにはエレベーターの設置が必要だが、倉敷、津山圏域の県立高等学校には、設置が1校もない。学校の個別設計計画にエレベーターの整備方針を記載することだが、具体的な方針を伺いたい。

9月定例会は、9月5日から会期23日間が開かれ、諸議案の審議を終えて9月27日に閉会しました。この議会に知事から提出された議案は、予算案1件、事件案件6件、条例案6件、人事案件2件の計15件でした。また、議会提出の発議案は、「私学助成制度の堅持及び充実強化に関する意見書」など4件が可決されました。9月8日は代表質問が行われ、青野高陽議員(自由民主党)、柳田哲議員(民主系クラブ)、荒島俊造議員(公明党)の3名の議員が県政の諸課題について会派を代表して質問を行ったほか、9月12日から15日、20日の計4日間にわたり22名の議員が一般質問を行いました。

大規模災害時には、市町村に膨大な災害対応業務が発生する。県の受援体制で、同等からの受援体制と市町村への支援体制を具体的に定めることにより、支援が必要な業務を明らかにすることにより、必要となる人員を必要な場所的に投入できるような準備を必要とした。また、BCP未策定の市町村は、引き続き、研修会や県の策定要領を活用し、積極的に支援してまいります。(知事答弁)

「新産業構造ビジョン」は、人工知能やデータなどを活用することで、従来対応できなかった構造的課題に対応することにもつながる。国の強みを生かし、インベーションを生み出すための新たな戦略を示したものと評価している。県は、国の動きも注視しながら、中小企業などにおけるIoTやデータの活用などによる生産性の向上や、インベーションの創出が進むよう支援するなど、的確に対応してまいります。(知事答弁)

在宅医療の環境整備には、在宅医療を支える医療関係者の理解の促進や、賃料向上などが必要であることから、医師会や病院協会などと連携し、取り組みを進めてきたことである。今後さらに、病院と訪問看護ステーション間の相互理解や、人生の最終段階での療養生活に関する話し合いの促進など、さまざまな観点から施策に取り組み、在宅医療を支える環境整備を進めてまいります。(知事答弁)

各産地における新規就農者の受け入れ体制を充実させることにも、就業に向けた研修のほか、先進的な栽培技術や経営ノウハウを学ぶ実践的な講座を実施し、リーダーとなる農業経営者の育成などを加速することとしている。また、農地中間管理機構などと連携し、担い手の農地の集積・集約化を着実に進め、経営規模の拡大を図るとともに、新品種・新技術の導入や桃・ナシづくりに続く新たな品目の育成などを通じて、高付加価値化に取り組んでまいります。(知事答弁)

現在改定作業中の県中小企業振興と位置付け、支援機関などが情報共有し、連携するためのネットワークを構築することにも、経営者の向きを促すための事業承継診断を実施することを盛り込んでいます。また、先般、県中小企業対策会議(商工会議所や商工会、金融機関など)構成において、事業承継をテーマに議論したところであり、今後、先行する他県の例も参考にしながら、本県の実情に即した取り組みを検討してまいります。(知事答弁)

県立学校施設などは、岡山県公共施設マネジメント方針に基づき、平成32年度までに、個別設計計画(修繕や耐震化などの実施計画)を施設ごとに策定することとしている。倉敷天城高校と津山高校は、改築時にエレベーターを設置するスペースを設けており、今後、個別設計計画を策定する中で、こうした施設にエレベーターの整備を図りたいと考えている。(教育長答弁)

9月20日	9月15日	9月14日	9月13日	9月12日
渡辺吉幸	山田総一郎	渡辺英治	池本敏朗	高塚俊彦
山田総一郎	渡辺英治	池本敏朗	高塚俊彦	大塚俊彦
山田総一郎	渡辺英治	池本敏朗	高塚俊彦	大塚俊彦
山田総一郎	渡辺英治	池本敏朗	高塚俊彦	大塚俊彦

## 用語解説

行政が被災し、業務停止下であっても、災害対応のための業務を適切に行うための業務継続計画。IoT。モノのインターネット。呼称は自動車の運転免許と同様に、免許が必要となるモノがインターネットにつながることで、情報のやり取りをすることでモノのデータ化が進み、新たな付加価値を生み出すことを意味する。急性期病院。緊急重症な状態にある患者に、高度で専門的な医療を提供する病院。紙面の都合上、入会回を要旨を掲載しております。

12月15日	12月14日	12月13日	12月12日	12月8日
加藤浩久	池本敏朗	森野高陽	小島弘行	渡辺知典
加藤浩久	池本敏朗	森野高陽	小島弘行	渡辺知典
加藤浩久	池本敏朗	森野高陽	小島弘行	渡辺知典
加藤浩久	池本敏朗	森野高陽	小島弘行	渡辺知典

## 11月定例会 議決結果

予算案 10件可決(10件中)  
事件案件 12件可決・1件認定(13件中)  
条例案 9件可決(9件中)  
報告案件 2件承認(2件中)  
発議案 3件可決(3件中)

## 用語解説

農地中間管理機構。平成26年度に全都道府県に設置された公的機関。「高齢化する農地の中間的受け皿」として、農地を担い手農家などに貸し付ける。事業承継診断。事業承継に関する診断項目への回答を通じて、自社の将来や事業承継に向けた進め方課題について経営者自らに検討するきっかけとする取り組み。岡山県公共施設マネジメント方針。岡山県公共施設マネジメント方針。県公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本方針。平成29年3月策定。

# 県議会トピックス

## 岡山県議会地域公共政策セミナー

県議会では、県政などに関する政策課題の解決に向けた立案を行うための研究を目的として、大学から講師を招き、地域公共政策セミナーを開催しています。

第1回(6月13日)「水素エネルギー社会の構築に向けて」岡山大学大学院自然科学研究科の河原伸幸准教授は、水素を燃料とした、二酸化炭素を全く排出しないエンジンの技術開発などを研究されています。2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、東京都が選手村を「水素社会」として運営することなど、水素エネルギー社会の構築に向けた国内での取り組み例などのお話があり、その後、水素社会の今後の展望について、意見交換を行いました。

第2回(9月8日)「岡山県における集落の現状と課題」岡山大学大学院社会文化科学研究科の藤井和佐教授は地域社会学を、同大学院環境生命科学研究所の九鬼康彰准教授は農村計画学を、専門に研究されています。県内中山間地域を対象に、まず九鬼准教授から、GISデータに基づいた集落の現状分析(社会機能や安全性・アクセス性・利便性といった観点からの分析)について、次に藤井教授から、集落住民の生活実態調査から見えてきた、居住維持に向けた集落のあり方についてお話ができました。その後、中山間地域の集落住民の安全かつ安心な暮らしの確保に求められる施策について、意見交換を行いました。

第3回(12月5日)「岡山県における地域医療と地域包括ケア」岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の浜田淳教授は、医療政策や社会保障を研究されています。医療・介護サービスを県民に適切に提供するための方策として、地域医療構想による効率的な医療提供、地域包括ケアの事例紹介などのお話があり、その後、高齢者の医療と介護について、意見交換を行いました。

## 議員連盟

県議会議員は、本会議や委員会での審議などの活動のほか、会派を超えて議員連盟を組織し、県の抱える課題の解決や、豊かな県民生活の実現のために、勉強会や要望活動などを行っています。

今回は、スポーツ振興や地域活性化に向け、県内に拠点を置くクラブチームを応援・支援している議員連盟の活動の一部をご紹介します。

がんばれ!ファジアーノ岡山県議会応援団(男子サッカー) 3月2日、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブの木村正明代表取締役にお越しいただき、J1リーグ昇格まであと一歩というところまで勝ち進んだ2016シーズンの状況や、ホーム戦の平均入場者数1万人の達成状況、2017シーズンの意気込みなどをお話いただきました。

岡山湯郷Belle県議会サポーターズ(女子サッカー) 6月21日、なでしこリーグ2部の「岡山湯郷Belle」から、巨崇詞監督兼ゼネラルマネージャー、亀岡夏美選手にお越しいただき、ともに地域を盛り上げていくため、今後も一生懸命にプレーしていきたいという決意を込めた挨拶をいただきました。

FC吉備国際大学Charme県議会サポーターズ(女子サッカー) 6月27日、なでしこリーグ2部の「FC吉備国際大学Charme」の太田真司監督にお越しいただき、チームの現状と今後の抱負を伺いました。また、赤木圭ゼネラルマネージャー、赤津友理選手、藤田涼加選手、石邑優美選手が、勝利に向けた力強い決意表明を行いました。

岡山シーガルズ県議会サポーターズ(女子バレーボール) 9月27日、岡山シーガルズの高田さゆりマネージャー、山口舞選手、吉田みなみ選手にお越しいただき、10月開催の「愛顔(えがお)つなぐえびめ国体」や、11月開幕の「2017/18V・チャレンジリーグ」に向けた抱負をお話いただきました。

# 県政に参加しませんか?

県の予算や条例などがどのように決められているか、本会議・委員会を傍聴・視聴できます。また、インターネットでも議会中継を見ることができます。

## 本会議を傍聴しよう!

本会議の様子は、議会の傍聴席から、どなたでも見学できます。本会議当日、議会棟1階で受け付けをし、傍聴券を受け取ってから入場してください。



- 開会時間/午前10時(時間は事前にご確認ください。)
- 定員/95人(先着順)

※傍聴席での飲食や喫煙、その他議事の妨害となるような行為はできません。

## 委員会をモニター視聴しよう!

委員会の様子は、議会棟2階の視聴室で、どなたでもモニターテレビにより視聴できます。委員会当日、議会棟1階で受け付けをし、視聴券を受け取ってから、2階の視聴室にお越しください。

- 開会時間/午前10時(時間は事前にご確認ください。午後にも開催される場合もあります。)
- 定員/36人(先着順)

※視聴するときは注意事項を守り、静かに視聴してください。



## インターネットで議会中継を見よう!

本会議の様子は、インターネットでライブ中継と録画映像の配信を行っています。パソコンのほか、スマートフォンやタブレット端末でも見ることができます。録画映像は、原則として、ライブ中継があった日のおよそ3日後(土・日、祝日を除く)からご覧いただけます。



※通信事業者のIPアドレスによる接続が可能な場合があります。通信事業者のIPアドレスを指定する必要があります。

## 議場見学で、議会の雰囲気を感じよう!

県議会を身近に感じていただけるよう、議場の見学を受け付けています。実際に議員席に着席し、議会の雰囲気を体感しながら、議会の役割や仕事などについて説明を受けることができます。



見学は、学校や学級、自治会などのグループ単位で、事前にお申し込みください。原則として、土・日、祝日、年末年始(12/29~1/3)、定例会・臨時会会期中などは見学できません。小学生向けや、英語のリーフレットもご用意しています。